

大志を育む



平成 28 年 8 月 25 日

(教職員向け)
教育委員会だより
No. 5

発行：北広島市教育委員会

次期学習指導要領のポイント(中央教育審議会より)

身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容、学び方の見通しを示す「**学びの地図**」として

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現をめざす

新しい時代に必要となる資質・能力の育成(3つの柱に沿って明確化)

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養
(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

「**確かな学力**」「**健やかな体**」「**豊かな心**」を総合的にとらえて構造化

生きて働く**知識・技能**の習得
(何を理解しているか、何ができるか)

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成
(理解していること・できることをどう使うか)

何ができるようになるか

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力
を踏まえた**教科・科目等の
新設や目標・内容の見直し**

- 小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」の新設
- 各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

※**学習内容の削減は行わない**

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び(「**アクティブ・ラーニング**」)の視点からの学習過程の改善

- 生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
- 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



【**道徳の教科化**】(小:H30 中:H31~完全実施)
児童生徒の道徳性を育む「**考え、議論する道徳**」に基づく授業改善と指導計画の整備

【**英語教育の充実**】(小学校で時数増)
外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる基礎的な力の育成

【**小学校段階でのプログラミング教育**】
ITを活用しながら論理的に課題を解決していく「**プログラミング的思考**」を養成

【**主体的な学び**】学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」を実現。

【**対話的な学び**】子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」を実現。

【**深い学び**】各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「**見方・考え方**」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いをもとに構想・創造したりする「**深い学び**」を実現。

北の台小のキャリア教育

～ キャリア教育のスローガン ～
大志の故郷
ど真ん中に子どもの夢がある学校

北の台小学校では教育活動を通して、子どもたちが主体的に取り組む、活動する喜びを感じる、自分の長所を自信に変える、『生きる力』を獲得する、そして、大きな夢をもち、将来の自立を図ることができることをキャリア教育の目標にしています。身に付けさせたい力は、以下の4つです。

協力	相手の意見を丁寧に聞く 自分の意見をわかりやすく伝える ルールや約束を守り、役割を果たす	自信	自分の長所や短所に気づく 自分をコントロールし、自分から行動する 自分の可能性や力に自信を持つ
挑戦	課題を見つけてよく調べる 計画を立てて改善したり、創意工夫したりする あきらめないで努力する	選択	「働くこと」の意義をわかる 必要な情報を活用する 目標に向かって何をすべきかを考える

ここでは、この力のうちの「**選択 目標に向かって何をすべきかを考える**」の取組を紹介します。

キャリア教育講演会
 植松電機専務取締役
植松 努さん

「思うは招く」という演題で講演をしてくださいました。あっという間の1時間でした。



PTAの皆さんの手厚い援助によって、開催することができました。植松さんは、「どうせ無理」をなくしたいと力説していました。たくさんの言葉が心にしみました。この講演会も「どうせ無理」を克服して開催されました。

講演後、子どもたちから多くの質問や感想を聞くことができました。保護者、地域の方も耳を傾けていました。

家族や友達などの「夢」をバカにしたりせず、「がんばれ」「いい夢だね」などという声かけをしたい。

私は将来看護師になって人々を助けたいです。お話を聞いて、夢をみんなに言ってみたくなりました。

お話を聞いて、夢をあきらめずにずっと追いかけ、努力すれば、何でもできることを学びました。

心に残った言葉は、失敗を乗り越え力にする。失敗は自分が成長するチャンスという言葉です。

子どもたちの感想の一部です。「どうせ無理」を克服してロケットを打ち上げ続ける植松さんの願いとメッセージをしっかり受け取ったようです。

①「きたひろ夢ノート」の取組み	②「今の自分を見つめるアンケート」の実施
③教育活動全般を通した「自立の構え」の育成	④キャリア教育を見据えた行事・活動の取組